

41008

教科書文庫

4
760
41-1904
2500 300/67

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

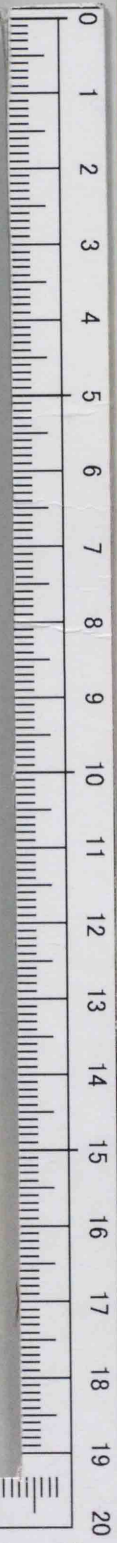
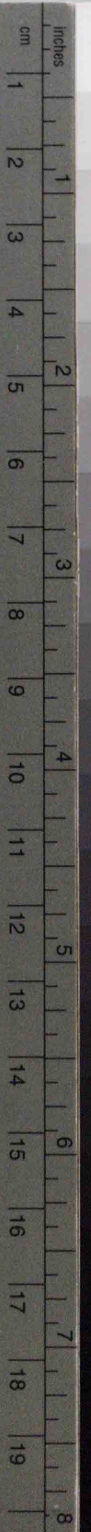


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科書文庫  
4  
760  
41-1904  
2500300167

760 類  
109 5號  
1

正訂  
重音唱歌集

壹

110

卷



教科書文庫  
4  
760  
41-1904  
2500300167



四七十月三年七十三治明  
濟定檢省部

廣師男登錄省號  
第307號錄改正  
14/26

760類  
109号

會合  
社資  
共益商社書店藏版

正訂  
重音唱歌集  
壹

廣島縣立師範學校  
小山作之助編



縣第二〇号  
和音樂  
部冊數

# 重音唱歌集

## 緒言

近時音樂の普及上進に伴ひて重音式歌曲の需利益々多きを加ふるの傾向あるは必然の結果とは云へ斯道の慶事たらずんばあらず然れども尙し供給の之に副はざらんか進歩の時機を空うし發達の盛運を遅からしむるの憾あるべしこれ本書を發行する所以なり

本書題して重音唱歌集と云ふ應に二部乃至四部或はそれ以上のものをも收むべきなり然れども實用上の便宜と程度とに鑑みて二部及三部の重音唱歌に止め之を第一第二の二冊に分載す

本書は家庭の娛樂に供せらるべく又學校の教科に用ゐらるべ

広島大学図書

2500300167



し而して書中重音の第一部即ち最高音部のみを採りて單音式に吟唱するも情趣を缺損するの患なきもの尠からざれば是等は歌曲の構成と實用の場合とに稽へ必しも重音式に依るを要せず又調は唱歌者の都合により多少の上下をなすも妨なし本書中曲譜又は歌章に作者の氏名を附記せざるものあるは一は其冀望に出で一は其未詳に因る

本書第一集は過る明治三十三年八月に發行せるものにして爾來印刷を重ねること數回に及び世の嗜好も亦其歩を進めたるが故に今回前版より重音唱歌五曲を省きて更に新選に係る十五曲を加へ輪唱歌全部を除きて之を輪唱歌集と題する別冊に收めたり

明治三十七年二月  
編者識

# 重音唱歌集

改正第一目次

## 春の部

花のあけくれ	四
春の心	六
佐保姫	八
御代の春	一〇
歸雁	一二
五月雨	一四
春の山	一六
夏の部	
夏の夕	二〇
千町田	二二
茂れる森	二四
谷間の姫百合	二六

秋の部

月夜の曲……………二八

秋の野……………三三

秋風……………三四

秋……………三六

紅葉……………四〇

故郷を思ふ……………四二

冬の部

冬の野……………四四

雪……………四六

雪戦……………四八

爐邊……………五〇

雑の部

自助……………五二

歌の徳……………五四

心の玉……………五六

深夜の都會……………五八

夢……………六〇

湖上夜景……………六二

天津日嗣……………六四

我が國……………六六

わかれ……………六八

ながれ……………七二

「ボチ」が墓……………七四

青雲……………七六

感謝……………七八

子供……………八〇

以上

花のあけくれ

祭 快 = ハウプト

アカツキイダスカネノネニ  
からすのはねにゆひなきこ

シラムのサハクハカヲカノニクニモ  
をらのににははひもらすらにぞて

ハオノメカダノミエガルーハ  
はあをのこたてくえあくは

五

ユルニサハオモヒアーリ  
はるの好いとのおまがめあり

○花のあけくれ

旗野十一郎

其 一

○あかつきいだす、鐘のねに、  
しらむ櫻が 岡の雲、  
花のすがたの、見えざるは、  
みゆるにまさる、おもひあり。

其 二

○からすの羽根に、夕日さし、  
空のほひも、うすらぎて、  
はなをのこして、くれゆくは、  
春のまことの、ながめなり。

四

春の心

Moderato.

ライツッケー

オホキノカーハノミヅノモヲ

クダストラブネノカゲハホノカ

アレアレナガルルハナビラニ

ワカアユムレテヨリースガ

七

キシムニモエールムラサキハ

カスミノキヌノスソヲソメテ

オホキノカーハノミヅノモニ

ノドカニウツルハルノココ

○春の心 白菊庵

六

大井の川の、水の面を、

下す小舟の、かげはほのか、

(甲) あれく流るゝ花びらに、

若鮎むれて、寄りすがる、

(乙) 岸へにもゆる、むらさきは、

霞の衣のすそをそめて、

大井の川の、水の面に、

長閑にうつる、春の心。





御代の春

Grazioso.

リーブライヒ

カスミノトバリハヒククタレテミワタスト  
 さへづるももとりちかくなれてそでふくこ

ホヤマホノボニホフーホノボノニホフヤ  
 ちかぜそよそよかよふそよそよかよふす

un poco rit.

ナギーノミードリーニサクラノシーローターヘノ  
 みれははははみわらびはまねきてた

Tempo.

ドケキナガメニココロゾウカールルアハ  
 のしきながめにこころぞうかーるるあは

十一

レハレアハレミヨノハルゾーメーデタキ  
 れあはれみよのはるぞーめでた

アハレアハレハルゾー  
 あはれあはれはるぞー

○御代の春

東宮鐵眞呂

其 一

かすみのとばりは、ひく、垂れて、  
 見渡す遠山、ほのぐにほふ、

柳のみどりに、櫻のしろたへ、  
 のどけきながめに、心ぞうかる、

あはれ、あはれ、  
 み世の春ぞ、めでたき。

其 二

さへづる百鳥、近く馴れて、  
 そでふくこち風、そよよかよふ、

すみれはほ、ゑみ、わらびは招きて、  
 たのしきながめに、心ぞうかる、

あはれ、あはれ、  
 み世の春ぞ、めでたき。

十

歸 雁

感フ以テ  
ラバレレ

コロシモヤヨヒノカスナルーソーラミーワタスカ  
ふるさととはくもいぬるかーかーりみーだれぬす

ギリハオボロオボロ フケユグハルノヨー トー  
がたはもじのごとく とわさるこゑこそーふ

モエワカレカールカカリガネコユカナシモ  
ねにまたれつーばさまかけしはたがたまづさ

十三

カールカカリガネ コユカナシモ  
つばさまかけしは たがたまづさ

○ 歸 雁

谷

勤

十二

○ ころしも彌生の、  
見わたす限は、  
ふけゆく春の夜、  
かへるかかりがね、  
かへるかかりがね、  
○ ふる里ごほくも  
みだれぬすがたは、  
ごわたる聲こそ、  
つばさにかけしは、  
つばさにかけしは、  
かすめる空、  
おぼろく、  
友にわかれ、  
聲かなしも、  
こゑかなしも、  
いぬるかかり、  
もじのごとく、  
ふねに似たれ、  
誰がたまづさ、  
たが玉章

五月雨

愉快 = レッドヘッド

サ ミーダ レフ ルーモ モツ レツ レト ハ  
し だーし きと もーど ちう ちより つ つ

ナ ニーカ ハオ モーハ ムフ ミヨ ムーミ ハ  
み ヤーれ ばろ のーふ まい ろづ くーう め

ノ キーバ ノタ マ ミ ッヤ ム ト キ ナ ク  
き のーふ の は つ は あ み に ち り た り

十五

マ ナービ テマ ターマ シハ レユ クーヒ ラ  
わ れーち が ま ふーび も か く こ そーあ れ

○五月雨

われ	きの	みや	○した	まな	のき	なにか	○さ
らが	ふの	れば	しき	びて	ばの	かは	みだ
							れ
ま	は	そ	こ	ま	た	お	ふ
な	つ	の	も	た	ま	も	る
び	は	ふ	ど	ま	み	は	日
も	な	に	ち	ま	づ	む	も
か	み	い	う	は	や	ふ	つ
く	に	ろ	ち	れ	む	み	れ
こ	な	づ	よ	ゆ	さ	よ	く
そ	り	く	り	く	き	む	
あ	た	う	つ	ひ	な	み	さ
れ	り	め	ゝ	を	く	は	は

十四

○春の山

中村秋香

十六

其一

霞 たなびく、春の山路を、  
 思ふ友どち、袖つれて、  
 蝶に伴ひ、蕨をりつゝ、  
 おくれ先だち、分けゆけば、  
 かをる雲に、鳥は歌ひ、  
 匂ふ雪に、風は吹く、  
 あはれ樂し、あなおもしろ、  
 けふのこの日、このあそび。

其二

背面影面峯また麓

おのがむきく、ゆきわかれ、  
 我を忘れて、うかれあふまに、

いつか高嶺に、うすつく日、

松にのぼる、夜のけはひ、

空ににほふ、月のかげ、

いざやいなむ、いざかへらむ、

おぼろ月に、たどりつゝ。

十七

春の山

快活= ウェーベル

カ スミ ター ナー ビ ク ハ ルー ノ ヤ マー ザー フ オ モ フ ト モー  
 そ と も か げ じ も み ね ま た ふ も と お の が む ぎ

ト チ ソ デー ツ レ テ テ フ ニ ト モー ナ ヒ ワ ラー ビ ヨ  
 む き ゆ き わ か れ わ れ ぎ わ す れ て う か れ あ ふ

リ ツ ツ オ ク レ サ キー ダ チ ワ ケー ユ ケ バ カ ヲ ル ク  
 ま に い つ か た か ね に う オ つ く ひ ま つ に の

十九

ぞ ニ ト リ ハ ヲ タ ヒ ニ ホ フ ユ キ ニ カ ゴ ハ フ ク ア  
 ぼ る よ る の け は ひ そ ら に に ぼ ふ つ ぎ の か げ い

ハ レ タ ノ シ ア ナ オー モー シー ロ ケ フ ノ コ ノ ヒ コ  
 び や い な む い ぎ か へー らー む お ぼ ろ づ き に た

ノ ア ソ ビ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ  
 び り つ つ ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ  
 ら

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ  
 ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら

十八

夏の夕

Allegro. ベリニー

ハナチバナニカゼカヲリテモノナツカク  
あをばやしはるこののしたかげふづき

シキユフベノソラアハレソヘツツ  
らきまはのおもりのアかたかあた

ナクホトトギスアナココロユクコエナルカナ  
とびかふはたるあおおもしろのかげあるかあ

アアコノコエヲオモフトモト  
あこのかげをにおもふとともと

カミラフノキニキカマシカハ  
かみらふのきにくましかは

○ 夏の夕

中村秋香

○ 花たちばなに、風かをりて、  
もはなつかしき、ゆふべのそら、  
あはれそへつ、鳴くほごぎす、  
あなこゝろゆく、思ふなるかな、  
あなこの声を、に、聞かましかば、  
かたらのき、に、聞かましかば、  
○ 青ばに、  
ゆふにしげる、木の下かげの、  
こなたきく、庭の、  
あなあなたに、かひかふほたる、  
あなあなたに、おもなるかな、  
ふみこのしるの、おもなるかな、  
窓に、おもなるかな、  
見てもふ友ご、  
見てもふ友ご、

# ○千町田

○千町田の 稻の葉に、そよぐ風さへ

のどかに見えわたる。大御代こそめでたけれ。

○せき入れし 水の色 なべてひとしく

ゆたかに見えわたる。大御代こそめでたけれ。

○謠ひつゝ 田草さる 賤の少女も

樂く見えわたる。大御代こそめでたけれ。

# 千町田

*Andante sostenuto.* *cres.* *f* *p* *マンデルス* *pp*

チマ—チダノ イネ—ノハニソヨ—ク—カゼサヘ ノドカ  
せき—いれし みづ—のいろなべ—て—ひとしくわたる

*cres.* *dim.*

ニミエ—ワタル オホ—ミヨコソ メ—デ—タケ—レ  
はみえ—わたる おほ—みよこそ め—で—たけ—れ

*p* *cres.* *f* *p* *pp*

ウタヒ—ツツ タクサ—トルシツ— ノ—ヲトメ モ タノシ

*f* *cres.*

クミエ—ワタル オ ホミヨコソ メ—デ—タケ—レ





谷間の姫百合

Andantino Moderato. *f* *p* ピンステキ

アサカゼスシ キーミヤマ ノータニマ ニカ 子  
つ ゆ け く み ゆ る は も の き は お も ふ か は

リサ トドメズ キョーケ キソノサマ アハレ アイラシ  
か くれ さ げ る は ひ と を ば い と ふ か あ は れ な つ か し

*cres.* *f* *rall.*

ヤーヒメユリ ノハナ ヨト シナホユカザル 一ヲ  
き ひ め ゆ り の は な よ の ち り の が れ し

ユカザル  
のがれし

二十七

*f con anima.* *rall. p*

トメノゴトクニ アハレ アイラシ ヤーヒメユリ ノハナ ヨ  
と め の ご と く に あ は れ な つ か し き ひ め ゆ り の は な よ

○谷間の姫百合

武島又次郎

二十六

其 一

朝風すゞしき、みやまの谷間に、  
ちりさへとめず、清けきそのさま、

あはれあいらしや、姫百合の花よ、  
としなほゆかざる、をとめの如くに、

あはれあいらしや、姫百合の花よ。

其 二

つゆけく見ゆるは、ものをばおもふか、  
葉がくれ咲けるは、人をば厭ふか、

あはれなつかしき、姫百合の花よ、  
世のちりのがれし、をとめの如くに、

あはれなつかしき、姫百合の花よ。

○月夜の曲

與謝野鐵幹

風清く、月あかき、

明石湊、須磨の浦

松青く、波白き、

須磨の浦、明石湊

人や誰、夜もすがら、

をちかへり、笙を吹く、

影はなし、磯づたひ、

唯笙の、音のみにて、

吹く風いよゝ、すみゆけば、

笙の音いよゝ、すみまさり、

てる月いよゝ、さえゆけば、

笙の音いよゝ、さえまさる。

風落ちて、月は入る、

あけがたの、ひきしほに、

笙の音は、沖のかた、

うすぎりに、消えてゆく。

月夜の曲

温雅= ストラング

カゼーキヨクツ キーアカキア カーシーガタスマノウラ  
ヒ トヤターレヨ モースガラ フ ナーカヘリ壁ーラフク

マツアラクナミレロキスマーノウラアカシガタ  
カゲハナーシソツツタヒタダ壁ーノーネノミニテ

三十一

フクカゼイヨヨス ミユケバ壁ーノネイヨヨス ミーマサリ

テ ルツキイヨヨサエーユケバ壁ーノネイヨヨサ エマサル

カゼーオチテツ キハイールア ケーガタノヒ キシホニ

壁ーノネーハヲキノカータ ウスーギーリニキエテユク

三十

秋の野

中庸<sup>ニ</sup>

アキノノ ヲーワ ケツツーク レバ ニフカーゼ  
 ニーヲ バナナービ キー スムツーキ ニーム  
 シヅナーナル オナヅーク バー アカシテユカーン  
 ヨシエヤーシヨシエヤーンワガコロモデハ ツ  
 ユニヒツトモー ワガコロモデハ ツユニヒツトモー

三十三

○ 秋の野

今泉定介

秋の野を わけつゝ、來れば、

夕風<sup>ゆふかぜ</sup>に 尾花<sup>おなな</sup>なびき、

すむ月に 蟲<sup>むし</sup>ぞなくなる、

おなじくば あかしてゆかん、

よしゑやし よしゑやし、

わが衣手<sup>いであて</sup>は 露<sup>つゆ</sup>にひづこも、

わが衣手<sup>いであて</sup>は 露<sup>つゆ</sup>にひづこも、

秋 風

Andante con mot.

レンツ

Musical score for 'Autumn Wind' (秋風) in 2/4 time, marked 'Andante con mot.' and 'レンツ'. The score consists of five systems of two staves each. The lyrics are written below the notes. The first system includes the tempo marking 'Andante con mot.' and the time signature '2/4'. The second system includes the tempo marking 'レンツ'. The score ends with a fermata over the final notes.

○	○	○
結	あ	小 <sub>こ</sub>
人ぶ	つた	み野 <sub>の</sub>
月のあ	尾 <sub>の</sub> り	一 <sub>つ</sub> 山 <sub>の</sub>
吹か何さ	吹花く静	ふ聲 <sub>こ</sub> 下 <sub>こ</sub>
くげぞち	くは岡け	く近 <sub>り</sub> 萩 <sub>き</sub>
秋とが	三秋まへ	二秋く來 <sub>の</sub>
風こ	風ねの	風る
にほと露	にぎ	に一聲
れはの	さ萩 <sub>ふ</sub> 庭	お遠 <sub>し</sub>
そぬたま	そのまに	く鹿 <sub>よ</sub>
よゆに	は葉ぐ	られの
がふに	れかれ	れて
れづ	てた	て
て、消え	(復唱)	(復唱)
つ		

○ 秋 風

旗野十一郎

○秋

三十六  
中村 秋香

其一

秋<sup>あき</sup>たちし、けしきは、  
目<sup>め</sup>にも又<sup>また</sup>耳<sup>みみ</sup>にも、  
おのづから、しらるゝ、  
此<sup>こゝろ</sup>ごろの、明<sup>あき</sup>く、  
萩<sup>はぎ</sup>におく、あさつゆ、  
萩<sup>はぎ</sup>に吹<sup>ふ</sup>く、ゆふ風<sup>かぜ</sup>、  
あゝ、あゝ。

其二

けふよりの、あはれぞ、  
げにおもひ、やらるゝ、  
野<sup>の</sup>邊<sup>べ</sup>に又<sup>また</sup>山<sup>かみ</sup>邊<sup>べ</sup>に、  
すだく蟲<sup>むし</sup>なく鹿<sup>しか</sup>、  
さきそむる、八<sup>や</sup>千<sup>ち</sup>草<sup>くさ</sup>、  
そめかくる、もみぢ葉<sup>は</sup>、  
あゝ、あゝ。

秋

Moderato.

ルビンスタイン

アーキタチシケ シキ ハー メーニモマタミ ミニモ  
 コーノゴロノアケクレ  
 オノツカラシ ラルルー コノゴロノアケクレ  
 ハーギニ オクアサ --- ツユ  
 ハギニオクアサ --- ツユ  
 ヲ --- ギニフクユフ --- カ  
 ヲ --- ギニフクユフ --- カ  
 ゼ アア --- アア ---  
 ゼ

ケーフヨリノア ハレゾー ゲーニオモヒヤ ラルル  
 スーダクムシナ クシカ  
 ノベニマタヤ マベニ --- スダクムシナ クシカ  
 サキソム ル --- ヤチ --- グサ  
 サキソム ル --- ヤチ --- グサ  
 ソメカ --- クル --- モミ --- チ  
 ソメカークルモミ --- チ  
 バ アア --- アア ---  
 バ

ritard.

紅葉

爽快 ウーベル

The musical score is written in 3/4 time with a key signature of one flat (B-flat). It consists of a vocal line and a piano accompaniment. The piano part features a steady eighth-note accompaniment in the right hand and a more active bass line in the left hand. The score is divided into several systems, with dynamic markings such as *f*, *mf*, and *ff*. The lyrics are written in Japanese characters below the notes.

Lyrics (Vocal line):

アアエ シタノ ツー ユラジ モキ ユヤ マベ シカ ンバ  
 エ キ タノ ハ ナー ユラジ モキ ユヤ マベ シカ ンバ  
 コ ミ スノ エ フ イ ロ ド リ シ ヅ エ ヲ ソ ノ フ ケ  
 ミ カ ラ ス ハ ニ シ キ カ オ ヲ シ ル ハ マ ヤ カ モ  
 ツ カ ラ ス ハ ニ シ キ カ オ ヲ シ ル ハ マ ヤ カ モ  
 ヤ マ ヒ ノ コ コ ロ ツ シ オ モ シ ロ ノ ア キ ノ イ ロ ヤ  
 ヤ マ ヒ ノ コ コ ロ ツ シ オ モ シ ロ ノ ア キ ノ イ ロ ヤ  
 ニ ル モ ノ モ シ ラ ズ シ ク ノ モ アー ラー シ  
 ニ ル モ ノ モ シ ラ ズ シ ク ノ モ アー ラー シ

○紅葉

東宮鐵眞呂

其 一  
 あしたのつゆじも、  
 こすゑをいろどり、  
 さらすはにしきか、  
 山ひめの心づくし、  
 似るものもしらす、  
 ゆふべのしぐれの、  
 下枝を染めわけ、  
 おれるは綾かも、  
 おもしろの秋のいろや、  
 及くものもあらしじ。」

其 二  
 あさ日のきらめき、  
 尾の上は照り合ひ、  
 にしきも及ばず、  
 山ひめの心づくし、  
 似るものもしらす、  
 夕日のかげれば、  
 谷間は匂ひひて、  
 あやにもまされり、  
 おもしろの秋のいろや、  
 及くものもあらしじ。」

其 三  
 行きてはながめて、  
 峯にもはなれど、  
 つかれも覚えず、  
 山ひめの心づくし、  
 似るものもしらす、  
 折りてはかざして、  
 谷にもくだれど、  
 暮る、も忘れぬ、  
 おもしろの秋のいろや、  
 及くものもあらしじ。」



故郷を思ふ

感ヲ以テ

ペリニー

マキグサニ ソヨグカゼ シラツユニ ヤドルツキ

ワガソデモ タダナラヌ --- ユフベーカーナ

コヒシチーハ --- ハ トホシフルーサート

ナツカシキ カーナタノ --- アーリーサーマツ

四十三

キヨウツセカ シ カゼヨカタレカシ

○故郷を思ふ

やち草に、そよぐ風、

しらつゆに、やごる月、

わが袖も、たゞならぬ

夕ゆべかな。

こひし父母、ごほしふるさと、

なつかしき、かなたの、ありさま、

月ようつせかし、風よかたれかし、

冬の野

日耳曼調

ツユジモ ノ オキワータ ス フユノアム  
こがらし の ふ き す さぶ ふゆののーん

ツユジモ ノ オキワータ ス  
こがらし の ふ き す さぶ

ゾー サビーシ キ ヤチグーサハ  
ぞー さびーし き き き のーは は

フユノアム ゾー サビーシ キ  
ふゆののーんぞー さびーし き

ウラゲーテ ナクムーシモ コエターテズ  
ちりはてて とぶとーりも おきかーやむ

○冬の野

其一

○露霜のおきわたす、

冬の野へぞ さびしき、

八千草は うら枯れて、

啼く蟲も 聲たてず、

其二

○木枯の吹きすさぶ、

冬の野へぞ さびしき、

木々の葉は 散りはて、

飛ぶ鳥も 行きなやむ、

雪

中庸ニ ハウプト

ニキフリッ モルワガニハノ  
かぜのさそひてちりゆけば

ケサノケシキーノオモシロヤ  
もとのはやしーのともきの

ウメモサクラーモハルママーデー  
またしらゆきのふりつーもーりて

四十七

コゾエハハナニッナリニケル  
さかのぼーとぞみえよけーる

○雪

其一

○雪降り積る、わが庭の、

今朝のけしきの、面白や、

梅も櫻も、春をまたで、

梢は花にぞ、なりにける。

其二

○風の誘ひて、散りゆけば、

元の林の、もこの木に、

又白雪の、降りつもりて、

盛の花さぞ、見えにける。

四十六



○ 爐 邊

友 田 宜 剛

野山も草木も、うづもれはてい、  
 白雪降りつむ、み冬親子の夕、  
 爐のもとかこみて、親子はらから、  
 語らふ團居は、のどけくたのし。

氷交るねぐらに、眠れる鴛鴦の、  
 羽交に霜おく、み冬親子の夕、  
 爐のもとかこみて、親子はらから、  
 温ときことひ、のどけくたのし。

吹雪や嵐や、みぞれにあられ、  
 降りしきすさる、み冬の夕、  
 爐のもとかこみて、親子はらから、  
 こ、ろの春風、のどけくたのし。

爐 邊

Andante.

The musical score consists of five systems of piano accompaniment. Each system has two staves (treble and bass clef). The lyrics are written below the notes. The score includes dynamic markings such as *p*, *cres.*, and *dim.*. The tempo is marked *Andante.*

Lyrics (from top to bottom):

ノコフ ヤほア マレキ モルヤ サくら キラシ モニヤ ウねミ ツむツ モれレ べるニ  
 ハキア テシラ テのレ シはフ ラガリ ユヒシ キにキ フレス リもサ ツおベ ひくル ミみミ フフフ  
 ユゆニ ノの ユユ フフ フベベ ロろノ ノの モもモ トとト カかカ コニコ ミみミ テてテ  
 オオヤ ヤヤ ココ ハハ ララ カカ ララ p カカ タク ラとロ  
 ハハ トル キドカ ハハセ ノの トビト ケケケ タタタ ノの シシシ



○歌の徳

落合直文

花の梢に、  
すむ蛙も、  
さやけき秋を、  
きくにつけても、

なくうぐひす、  
のどけき春を、  
よばふならん、  
人はうたはで、

ながれの底に、  
めづるならん、  
その聲々を、  
あらるへしや。」

力をいれず、  
歌なりけり、  
なかなるものは、  
うたへやうたへ、

天地をも、  
目にも見えざる、  
うたなりけり、  
うたはで人の、

うごかすものは、  
鬼神をも、  
うたへやうたへ、  
あらるべしや。」

ますら武雄の、  
その中をも、  
柔なるものは、  
うたへやうたへ、

そのこゝろも、  
和むるものは、  
うたなりけり、  
うたはで人の、

男女の、  
うたなりけり、  
うたへやうたへ、  
あらるべしや。」

歌の徳

温和

フ#ツレアー

ナララ  
ハチマ  
ナカス  
ノヲ  
コイタ  
ズレケ  
エツ  
ニツ  
ナツ  
タメ  
ウツ  
グチ  
ヒロ  
スモ

ハエ  
キミル  
ケム  
ドに  
ノメ  
モリ  
ツツ  
ハリ  
カ  
カ  
ム  
ス  
ニ  
コ  
ソ  
ノ  
ガ  
レ  
カ  
ゴ

ヨラ  
ハ  
キ  
ア  
モ  
キ  
ル  
ケ  
ス  
ヤ  
カ  
サ  
ナ  
ム  
ナ  
ナ  
ル  
ガ  
ナ  
ツ  
メ  
フ  
ハ  
ル

ケラ  
ツ  
ニ  
ク  
キ  
フ  
エ  
ゴ  
エ  
コ  
ノ  
ソ  
ラ  
ウ  
ハ  
リ  
ラ  
ケ  
ナ  
リ  
フ  
ナ  
バ  
タ  
タ

ヤ  
ヤ  
シ  
ベ  
ベ  
ル  
ラ  
ア  
ア  
デ  
ハ  
ヒ  
タ  
ウ  
ハ  
ハ  
ト  
タ  
タ  
モ  
ヒ  
テ  
タ  
タ

心の玉

温和ニ オンスロー

ホッタルモヨルキヲステラナリニ  
つもれはゆきもよをてらす

テ一シガタマモナニカセム  
べんながたまもなにかせむ

ココロノタマヨミガキテソ  
このろのたまよみがきてそ

五十七

クニノヒカリトナリナマシ  
くにのひかりとなりなまし

○心の玉

小原燕子

五十六

螢

其 一

もよるを、てらすなり、  
趙氏が玉も、なにかせむ、  
心のたまを、みがきてぞ、  
國の光と、なりまし。

其 二

つもればゆきも、よをてらす、  
卞和が玉も、なにかせむ、  
心のたまを、みがきてぞ、  
國の光と、なりまし。



深夜の都會

トナル  
キヤレ  
口ねゴ  
クムニ  
ノてズ  
ビヒタ  
シカタ  
ルキキ  
クオフ  
スモ  
ラチリ  
モミチ  
リノシ  
ヨレ  
ツギガ  
ツギケ

ガマニ  
マミラ  
ルン  
クノキ  
ルキシ  
シメナ  
ハナム  
リモテ  
アホリ  
ニマ  
ミシ  
ヤシ  
兵衛  
キヤレ  
イカカ

リむダ  
ケラカ  
エブノ  
ダシ  
トモホ  
モヤル  
ビリタ  
ケワ  
サキ  
カキ  
カキ  
カキ  
ノムツ  
シマ  
ナツ  
カキ

○深夜の都會

佐々木信綱

○煙

突つ  
黒き  
歎息も、

走る車が、

高きさけびも、

其

○う

き世の道を、

胸やすからぬ、

其

○け

がれし塵も、

吹きたゞず、

其

○に

ごれる風も、

さらめきわたる、

其

○む

なしき空に、

三つ二つ、

其

○星

のかげ、

結ぶらむ。

其

○錦

のごこに、

しばしねぶりを、

其

○高

きさけびも、

ごだえけり。

其

○走

る車が、

悲しびの、

其

○苦

しびの、

みけり、

其

夢

オモヘバトモノハヤツビドて ツムハハハミナ  
おふぞしそらよあををびきて つまははほし

マシモノサクラガモトニハギミダレー  
しきののまらうきかがもちをハつきのうち

ナクハルトリニアキノムシハココレ  
じやうがのよたるやをぞのむーハココレ

ユメカユメ一のノ一ヨニナホレ  
ゆめかゆめ一ののーよになほれ

○夢

其 一

○思へば友の、はやつごひ、摘む花は皆美味物  
櫻がもごに、萩みだれ。

啼く春ごりに、秋の蟲

其 二

こはこれ夢か、夢の世になれ。

○仰ぎし虚に、遊び来て、翫物は星の、五色の毬  
兎が餅を、月のうち、

嫦娥の煎たる、茶をぞ呑む。

こはこれ夢か、夢の世になれ。

旗野十一郎

湖 上 夜 景

明亮=且温和ニ

ツエルテル

サニサナミヨスルオホワニダク  
ビニマママのフホカルゲルツオホケワニダク  
クニ

ウフカカゼナギシオキニカハヘニ  
フミキギハハノマツシノモニアキニカハヘニ  
シテ

タナナシマブネウカガブナリマ  
ホミナナシマブネウカガブナリマ  
マ

アアコソヨマミヒクナラシ  
ナナコソヨマミヒクナラシ  
マ

○ くも 汀の間 見松を えも なる三すす鳩げ二海、し、一  
 ながそあ、な の、 士、小沖大  
 めわらはど 蘆の 更こ舟に海  
 もたは月る の 聲けそ舟に海  
 廣、れ、影ふ ね葉はなて 網、うに  
 き、てに や、がく 出、れに  
 沖の島 みづうみや

○ 苦屋の 其 火は かなぶか 海、し、一  
 つまの 其 かなぶか 海、し、一  
 なよ火は かなぶか 海、し、一  
 なよ火は かなぶか 海、し、一  
 なよ火は かなぶか 海、し、一

○ さ 浦風波の 其 波よする、一  
 浦風波の 其 波よする、一  
 浦風波の 其 波よする、一  
 浦風波の 其 波よする、一  
 浦風波の 其 波よする、一

○ 湖 上 夜 景

谷

勤

天津日嗣

餘り遅クナク アイヒベルヒ

○天津日嗣

○天つ日つきは、神代より、  
 國てかはる時なく、さかえつゝ、  
 ここにすくれて、たふごきは、

○暑さ寒さも程を得て、わが國ぞ。  
 國て山はけだかく、水きよく、  
 ここにすくれて、たのしきは、

○あふげもろ人、わが國を、  
 國てしたへもろびご、我國を  
 ここにすくれて、めでたきは、  
 すめらみくにぞ、わが國ぞ。

我 國

Allegro. 子ガリー

ノエ ア ドシフ ケのゲ キはヤ ハカヒ ルミト ノよビ エのト カナフ スガジ ミたノ タホマ チリマ

サキキ ヤクヨ ケラメ キはヨ アミコ キクコ ノにロ ヨのヲ サにイ ギほス リいズ ハホガ レハ

アムク メもニ カあブ ゼのリ トむシ キカメ フしセ タあト ガふツ ヘげク ヌヤニ ミあマ ヨふデ ヤげモ

アムク メもニ カあブ ゼのリ トむシ キカメ フしセ タあト ガふツ ヘげク ヌヤニ ミあマ ヨふデ ヤげモ

○ 我 國

○ のごけき春の日、霞たち、さやけき秋の夜、

さざりはれ、雨風時を、たがへぬ御代や、

雨風時を、たがへぬ御代や、

○ 吉野は神代の、すがたなり、櫻は皇國の、

にほひなり、雲井のむかし、あふげやあふげ、

くもゐのむかし、あふげやあふげ、

○ あふげや人々、ふじの山、きよめよ心を、

五十鈴川、國ふりしめせ、外國までも、

くにふりしめせ、外國までも、

○わかれ

其 一 (告別)

あしたにゆふべに、  
睦むつびし友ともよ、  
いまこそ、  
わかれめ、  
さらばよ、  
さらばよ、  
おん身みを愛めで、  
學まなびの道みちに、  
いそしみたまへや、  
わがとも。

其 二 (送別)

桂かづらのかぶりを、  
かざせる友ともよ、  
いましも、  
わかれか、  
さらばよ、  
さらばよ、  
うれしきもの、  
かなしきことよ、  
まささくいませや、  
わがとも。

○送別 (師に對す)

中村 秋香

其 一

をしむもかひなき、  
こたびの別わかれ、  
さらばや、  
師しの君きみ、  
さらばや、  
師しの君きみ、  
年とし月つき永ながく、  
うけにし恩めぐみ、  
いづれの、  
時ときにか、  
忘れむ。

其 二

暑あつさに寒さむさに、  
いとはせられて、  
さらばや、  
師しの君きみ、  
さらばや、  
師しの君きみ、  
御國みくにのために、  
又また世よのために、  
渡わたらせ、  
給たまへや。

わかれ

マンデルスゾーン

Musical notation for the first system of 'わかれ', including treble and bass clefs, notes, and lyrics: アシタのユカフベニをムツビシトモヨ

Musical notation for the second system of 'わかれ', including treble and bass clefs, notes, and lyrics: イマニソノワカニレカ

Musical notation for the third system of 'わかれ', including treble and bass clefs, notes, and lyrics: オレミヲメテマカ

ラバヨサラバヨ

Musical notation for the fourth system of 'わかれ', including treble and bass clefs, notes, and lyrics: ナビノミヤニイソシクタイマセヤワカトモ

あひ見でたがひに、年月経とも、契を。
月雪花の、るるな、折々、日頃の、
今日より後は、ふた、び、又あひ、見るべき。
列ねし袂を、今こそわかて、
さらばよ、わが友、
さらばよ、わが友、
其 一
其 二

送別 (友に對す)

中村秋香

○ながれ

ながれぞ、めでたき、山よりいで、山をめぐみ、  
 野中をすぎて、野をうるほす、流ぞめでたき。

其 一 (仁)  
 ながれぞ、賢こき、あるひは直く、又はうねり、  
 地の理につきて、海を索む、流ぞかしこき。

其 二 (智)  
 ながれぞ、を、しき、いはほは支へ、岸はせぐも、  
 くじけず行きて、海にいたる、流ぞを、しき。

其 三 (勇)  
 ながれぞ、ゆかしき、世に立つ人も、か、れかしと、  
 つきせぬ教訓を、返すく、流ぞゆかしき。

ながれ

pp メンデルスゾーン

イナサイ  
 リハハツ  
 ヨヒホタ  
 マるハに  
 ヤアイよ

ナナナ  
 ガガガ  
 レレレ  
 ゴゴゴ  
 メカヨ  
 デシヨ  
 タニシ  
 キキキ

ノチクツ  
 ミリモト  
 グネクシ  
 メラセカ  
 フハハレ  
 マタシカ  
 ヤマキカ  
 テクヘモ  
 デハサト

ナナナ  
 スムル  
 ホトタ  
 ルモイ  
 ウをニ  
 ヲミミ  
 ノヲウ  
 テテテ  
 ギギギ  
 スツユ  
 ヲにズ  
 カリケ  
 ナのジ

ナナナ  
 タニシ  
 キキキ  
 デシヨ  
 メカヨ  
 ゴゴゴ  
 レレレ  
 ガガガ

メ デー タ キ



「ポチ」が墓

リーブライヒ

フ リ シ ク ユ キ ニ イ サ ミ タ チ テ ク ル ヒ シ サ マ ゾ  
 イ ト カ シ ト キ ナ ヘ ガ ビ ヲ ナ レ シ コ ト モ ナ カ ナ カ ナ カ ナ カ ナ カ ナ カ ナ カ  
 イ ト マ モ ミ ユ ル イ ツ ル ニ イ ル ハ イ ノ オ  
 ヲ ウ キ ヤ ミ ナ リ ヤ タ ム グ ノ ハ ナ ノ ナ ツ  
 ク リ ム カ ハ ニ エ シ コ ハ ゾ ニ カ ノ コ  
 ヲ ヲ ガ ノ コ ロ シ ヲ ヲ シ ヲ ヲ シ ヲ ヲ シ ヲ ヲ シ ヲ ヲ シ ヲ ヲ シ ヲ ヲ シ ヲ ヲ シ  
 ル ヲ ア ハ シ タ ハ シ ホ チ ヲ ホ チ ヲ ヲ ヲ  
 ヲ ヲ ア ハ シ タ ハ シ ホ チ ヲ ホ チ ヲ ヲ ヲ  
 ア ハ ナ ツ カ シ シ ホ チ ヲ ホ チ ヲ  
 ア ハ ナ ツ カ シ シ ホ チ ヲ ホ チ ヲ

○「ポチ」が墓

東宮鐵眞呂

其 一  
 降りしく雪に、いさみたちて、くるひしさまで、今もみゆる。  
 出づるに入るに、送りむかへ、ほえにし聲ぞ、耳にのこる、

其 二  
 あはれしたはし、「ポチ」よ「ポチ」よ、  
 あはれなつかし、「ポチ」よ「ポチ」よ。

其 三  
 いかにと問へど、顔もあげで、一聲なきし、時やいかに、  
 今のはきはの、なれが心、我より外に、たれかしらむ、

年月ながく、なれしことも、なかく、今は、うらみなりや、  
 たむくる花の、つゆの心、しづかにうけよ、こけのしたに、  
 あはれしたはし、「ポチ」よ「ポチ」よ、  
 あはれなつかし、「ポチ」よ「ポチ」よ。

あを雲

Allegretto.

ガムベルト

アー フグ モタ ナー ビー ク ク カ マ ハ ヤ マ  
 しー ろ た へ き らー せー る お ほ か は を が ほ

ハー ル ベ ハ ナー サー キ ア キ ベ ハ モ ミ ッ  
 みー ろ と は るー かー ち ゅ く す る と ほ

ノゾ ミ テ ア フ ゲ ズ カ ガ シ テ ウ タ へ  
 あ め は つ き す む す ふ よ し や

ア シ タ ノ イ ロ カ エ フ ベ ノ ニ ホ ヒ 波  
 あ た け き あ が れ す ず し き な が れ ね

ゲ ゼ ニ モ メ テ タ キ ワ レ ラー ガ サ チ  
 ギ ム ム た の し き わ き らー が さ ち

ヨ ナ ソ ヨ リ ケ ダ カ ヤ マ ト ノ ク ニ  
 ろ よ り き よ け き み づ ほ の く コ

○ 青雲 其一  
 春雲 花はなびく、高山端山  
 へ た な び く、 た き、 の の 香かへ も  
 け た ふ し さ き、 の の 望のみ  
 だ き、 べ た き、 日ら は 山  
 か の の 香かへ も  
 き わ 句 色 秋 山 端 山  
 れ ひ 香かへ も  
 日ら は 山  
 本まが 望のみ  
 の 幸頭望のみ  
 國 挿みづ  
 して 仰  
 て 仰  
 諷たげ  
 へ、

○ 實 白 水妙 源 其 げ  
 よに 水妙 源 其 げ  
 そ も 源 其 げ  
 よ 樂 〇 〇 は ら 其 げ  
 り し す ゆ る せ 二 げ  
 清き 〇 〇 た か る、 二 げ  
 け し け に、 だ き、 べ た き、  
 き わ き き 大 げ  
 れ 流 流 行 川 げ  
 瑞られ、れ、末小 げ  
 穂が 遠川 げ  
 の 幸 〇 〇 し、  
 國 掬眺 げ  
 ぶ 望 げ  
 も は げ  
 よ つ げ  
 し き げ  
 や、 げ

○ あを雲

感謝

Allegro,

レシツ

アキカ メカナ ノシシ ヒロキ モモモ カアタ セツノ ノシシ ヒロキ モモモ ヤネナ スモグ ラビサ カメメ ニのツ マモイ

モシマ フレラメ ツシク

フアア サクマ マサタ ミレト

ヒのロ カゾト リミナ ウモス ゲチギ テテテ ウラウ レレレ シシシ ククク モモモ コニコ

ココロ サササ ラララ ムムム ヨヨヨ シシシ ヤヤヤ マママ コニコ

ココロ サササ ラララ ムムム ヨヨヨ シシシ ヤヤヤ マママ コニコ

イイイ カカカ ゴゴゴ ワワワ ガガガ スナス ルルル ミベベ キキキ マシト ナのモ ヤマト ノのノ メカマ

グシコ ミシト ヲをヲ マシト ナのモ ビギビ ヤマト ノのノ メカマ グシコ ミシト ヲをヲ

○ 感謝

○ 雨の口も風の日も、安らかにまもられつ、  
 (乙) 治まる御代の、(甲) 光をうけて、  
 うれしくも、此處、いかでわが忘るべき、  
 此所を去るも、恩恵を、  
 學校の恩恵を、  
 學びやのめぐみを、

○ 寒き日も暑き日も、  
 (乙) 行き末遠き、(甲) 希望の篤の教訓うけ、  
 うれしくも、此處、いかでわが忘るべき、  
 此處を去らむ、よしや今、  
 師の慈愛を、  
 師のきみのなさを、

○ 哀しきも樂しきも、  
 (乙) あまたの年を、  
 うれしくも、  
 此處を去らむ、よしや今、  
 友處の去るも、  
 此處を去らむ、よしや今、  
 友人の信義を、  
 いかでわが忘るべき、  
 ともびとのまことを、

○ 子 供

旗野十一郎

八十

其 一

○ 若草を つみなく 遊ぶ子供らは、

その野邊の ひろきぞ 彼が心なる、

望は 紙鳶ご空にのぼり、

思は 綺毬ご共に、 はみ。

他のをも わがのも、 かりつ またかしつ、

嬉しさの 小躍 勇むいくさ歌。

場所も 時も、 おのが 随意に。

世はなれし 歡樂 アハレ うらやまし。

實にも人の受性は 誠真なり」三唱句

其 二

○ 青柳の いとより つぎふ 子供らは、

春風の 淡泊ぞ かれが こゝろなる。

衣手 ぬらして、 鮎の子捕へ。

山吹 折りて 蝶ご 狂ひ。

拾ひとる 小石は 父への 土産なるか。

摘みためし 嫁菜は、 母への つとなるか。

各互に 歸る、 おのが 家路。

あいらしの 素振や ともに 親おもひ。

實にも「人の受性は、 誠真なり。」三唱句

八十一

子 供

餘り速クナン

リニーベル

ワ カクサヲ ツミナ クア ソブ コドモ シラ ハ ソ  
あ を やぎ の いと り つ ど ふ こ ど も ら は は

ノノベノヒロキツ カシガコロナル  
るかぜのあはぎで かがこころふ

八十三

コト ソラニノボリ ヒトノマワガノモカ  
トモモのこゝろに しろひとるこいしはち

リツマタカシツ ウレシサノコヲドリ イサムイクサウ  
ちへのつとあるか つみだめしよめおは ははへのつとある

タ ト コーローキモ オノガーマーニヨ  
か か たーにーかへる おのがーにーが

ハナレシタノシモ アハレウラマミ ヒトノサガハマ  
いらしのさぶりや とおはやおもい ひとのさがはま

八十二

コトナリ ヒトノサガハマコトナリ ヒトノサガハマコトナリ  
ことあり ひとのさがはまことあり ひとのさがはまことあり



著作權所有

明明明明明明  
 治治治治治治  
 三三三三四四  
 七七八八三三  
 年年年年年  
 四四二三四四  
 月月月月月  
 十廿三廿十  
 四八七五七  
 日日日日日  
 印發再再八九  
 版版  
 刷行刷行刷行

(定價五拾錢)

編者  
 東京市小石川區關口臺町五十七番地  
 小山作之助

發行者  
 東京市芝區芝公園第十八号地五番  
 會社 共益商社書店

代表者 白井直

印刷者  
 東京市芝區南佐久間町二丁目三番地  
 積田益太郎

發行所  
 東京市芝區芝公園第十八号地五番  
 會社 共益商社書店

(電話 芝五二七番  
 東京振替貯金 五八〇番)





広島大学図書

2500300167

